

営 農 情 報

令和7年6月吉日
J Aあいち海部 南部営農センター

《 コシヒカリ編 穂肥 》

上質な米作りのポイント

～美味しい米づくりの正念場～

4月下旬から5月上旬にかけての気温が平年を下回る日が多く、また風が強い日が多くみられたことから、この時期に移植した圃場の一部では植え痛みが発生していました。その後の天候により生育は回復してきています。

田植えの早いあきたこまちでは6月中旬から幼穂形成期となり、平年よりもやや早い7月2日頃から出穂が始まると見込まれます。4月20日頃移植のコシヒカリでは、出穂期は平年よりやや早く7月14日頃から出穂が始まると見込まれます。

*穂肥の目安は？

- ① 稲の色がまだらにぬけだしている。
- ② 幼穂部分があがっている。(3mm程度)

*施肥量の目安は？

稲の姿勢が立って見える → 早見表-1

稲の葉がたれてぞよついて見える → 早見表-2

早見表-1 (エコレット048)

4月20日頃の田植	色がさめている	6月25日	20kg	10日後	20kg
	色がさめていない	6月25日	20kg	10日後	20kg
25日頃の田植		6月28日	20kg	10日後	20kg

早見表-2 (エコレット048)

4月20日頃の田植	色がさめている	6月25日	15kg	10日後	15kg
	色がさめていない	6月25日	10kg	10日後	15kg
25日頃の田植		6月28日	10kg	10日後	15kg

◎中干し後の水管理について

中干し終了後の水管理は、間断かんがいを行きましょう。

今後、天候次第ですが出穂の時期は、圃場の水をきらさないように努めて下さい。
概ね、2週間程度ですが、開花以降の高温期は通水管理が品質向上につながります。

イネカメムシは出穂直後の穂を吸汁するため多発すると減収の原因となります。コシヒカリを中心とする極早生品種は被害を受けやすいので注意が必要です。また、近年はミナミアオカメムシやクモヘリカメムシも多く発生しています。集落単位での共同防除(ラジヘリ空散または個人散布)に努めましょう。**スタークル**粒剤を使用する方は、**出穂期の7日前～出穂期**までに散布するようにしましょう。(10aあたり3kg)

※栽培日誌に忘れずに記入して下さい。